

日本プロレタリア美術家同盟（略称P・P）活動日誌（承前）

——昭和七年三月十六日～五月二十二日——

浦西和彦

四月二十九日

常・中・委

出席＝橋浦・岡本・大月・長谷川・寄本・小山・大平・吉原・喜

入（出版部長代理）・松山・大倉（神戸支部代表）・三田・阿

部・野口（傍聴）

欠席＝矢部。

1、事務報告（略）三田。

2、一般報告（松山）

四月情勢と我々の活動を見るにあたって、その視点をコップに
対する弾圧においてみよう。三月カンパに対する暴圧にひきつ
く4月上旬の検挙はプロレタリア文化運動にとつての未曾有の
弾圧である。かゝる支配階級の強圧政策は何を意味するか。第

一に、深刻化する経済恐慌下に抬頭しつゝ、ある大衆の不平不満
反抗の増大とその革命的高揚を意味し、かゝる中に前進しつゝ、
ある所の××的プロレタリアアートに対する二月、三月検挙の
一カンである事を知らねばならぬ。第二には、したがって、こ
れはプロレタリア文化運動が××的プロレタリアアートの斗争の
線にそつて、その陣営を拡大し、とゝのえつゝ、ある事を意味す
るものである事。第三に、かゝる彼らの恐慌政治を一層狂暴化
せしめる原因としての戦争の發展を証明してゐるものである。
事実、雪どけを待つて、ソ同盟攻撃を具体化すといふ噂通り、
着々と戦備が拡大しつゝ、ある。即ち問島攻撃・国境への増兵・
列車バク破事件を通じて明らかな挑戦態度。そして文化機関を

あげてソ同盟に対するデマと中傷と、戦争の煽動・宣伝等々。以上を通じて知るものは資本主義体制の震慌と、社会主義体制の優位性の發揮、その経済的、文化的發展との対立の激化である。

又我々を見る。一方に於ては帝国主義国家間の対立矛盾の激化を。上海會議（停戰会ギ）の停とん情体、並びに國際聯盟に於て開催中の軍縮會議の行きづまりは、これを明瞭に体现してゐる。

この國際的対立と共に国内階級対立は尖鋭化されてゐる。この対立に於ける資本家階級の攻撃はファシズム、社会ファシズムへの移行を急遽化してゐる。国本社、国民主義運動のぞく出と抬頭、ケーサツ政治の完備、強力化等。又は、社民党の分裂、社民党・労働党の合同運動等はファシスト、社会ファシストの各々の役割任ムを明確にし、プロレタリアートに対する攻撃の陣客を再編成してゐる。

かゝる情勢は必然に文化領域にも反映し、意識的無意識的にファシシヨ化・社会ファシシヨ化の道が邁進されてゐる。

有名、無名画家の××画の揮毫。〓山本鼎の三勇士。□□□の上海展。又は、ファシスト的表明に於て川端龍子の論文（アート

リエ4月号）又は社会ファシズム的態度を鮮明にせる津田清楓の論文、私の客観的立場（朝日）等を見のがしてはならぬ。

かゝるブルジョアジーの攻撃の増大に対して××的プロレタリアートの逆襲は執拗果敢にくりかへされてゐる。日々ブル新聞が報道する檢拳を見ても、赤色メーデーに向かつて如何に広汎に、如何に大衆的に如何に集中的に活躍してゐるかを見る事が出来る。

かくて、我々は自らの活動をはつきり見極めねばならぬ。

我々に於ては立遅れがくりかへされてゐる。強圧、救妨害、犠牲者等、困難性を見落すものではないが、而も我々はヒドク立遅れてゐる。

第1に、コツプの確立をめざして、下から大衆的抗ギ運動を巻き起し、組織する為に、コツプ各団体の先頭に立つたが、独自の活動に於いて暴反の檄が11日、抗ギ運動を組織する為の指令を21日によく発してゐるといふ有様である。

しかも重要なことはこの抗ギ運動をメーデーカンパに結合する事を拙劣にした。（指令にこの事がオミットされてゐる）

第2に、メーデーカンパへの方針をしめたのは21日であり、

メーデー対策委員会を一応つくったのが矢張り21日である。そしてこの委員会の具体的斗争の開始いされたのは26日以降である。

第3にメーデーへの斗争の中心題目となるべき出版活動の爲の拡大出版部会が開かれたにもか、はらず、拙劣な方針書を出しかつ責任者検束によつて実質的に活動を停滞混乱せしめた。

第4に、××競争が、××競争の爲の××競争にだした傾向を持つた事。これはメーデーカンパへ向けた活動の中に設定してゆかねばならなかつたのである。この爲の檄は11日に出されている。

第5に、理論的活動が実践に跛行してある事である。日常的に生起する具体的な問題を通じ、又は取上げて批判し、究明し、検討し、それを大衆的に浸透させてゆく活動が欠如している。たとへば現在多分に理論的文ケンをふくむニュースをたゞ送りつけるのみで、その徹底化の爲の教育活動は皆無である。又展覽会評・川端・津田等の論文に対する批判の爲の活動を過小評価してゐる。この事は論文をもつて応へる事と一方に於ては、かゝるものに対する大衆の関心をとらへ、それを教育していゆく事がおえたられてゐる。この事はサークルに対する教育の無方針をしめす以外の何ものでもない。

第6に、活動の統一の見地を全く見落してゐる。下からの報告が殆んど来てゐない。不均衡と、無統制と、非組織性の助長。

第7に、財政活動の不振である。これは全活動に大きな打撃を与へてゐる。今日同盟は80銭納入といふ事は完全なる敗北である。同盟は完納の新方針を早く出さなかつた事。カンパに対する斗争と用を算定しそれを一定期間に徴集する方策をすてた事。維持会員の支部へのわりあて、引きつぎ、遅延。××競争の数字をいち早く設定し通達しなかつた事等々。これは当面情勢が要求する最も急速に恢復すべき活動でなければならぬ。第9に美新のメーデーカンパに対してたつた一回の発行。

第10に機カン誌の発行遅延。

以上を要約すれば明らかに我々の全面的立遅れである事が明らかである。あらゆる困難を通じて、かゝる立遅れをうめあはす爲の最善の努力が結集されねばならぬ。

2、副報告

A、組織（長谷川）ナシ。《意見》地方支部といふは誤りにつき取り消さしめる事。

B、教育（大月）部会1回（28日）『機関誌諸論文批判。サークルに対する方針まだ出来ぬ。教育出版の計画進捗せず。

C、出版（喜入）15日部長ケンソク。書類押収。

・美新6号発送。338 (地方支部) 200 (寄贈) 154 (地方書店) 348 (残)

・会計、美新出版費¥88.00、収入¥22.00 (回収)、¥19.60 (基金)、¥48.40 (借金) ¥125 (印刷や借金)

・拡大会議報告Ⅱ当面の任ム、(1)美新の月二回発行。(2)機関誌の定期発行。(3)各支部の自主的出版活動の強化。(4)誌代回収100%。(5)PPP会出版物の統計調査表の作製。(6)広告による経営の補助。(7)基金運動の拡大。

・プロ美新集刊輯計画。7月発行予定。一五〇P、一〇〇部。
《意見》七〇〇円基金募集の為に特別ニュースを出して常にその成績を発表してゆく事。(採用)

配布網の確立は急務である。読者会といふ様な組織におとす事なく、サークル内に於けるPPPの直接的接点として認識する事、さらに未組織へ這入りこんで、サークル組織に先行するものとしなければならぬ。(採用)

D、展覧(寄本)

・北海道地方展覧会準備中。《意見》大月・橋浦派遣承認。現展の任務を負ふ事。

・海外作品発送準備、第1回プロ展より第4回までの代表作を選別する事、審査員、寺島・岡本・大月・矢部・松山・

寄本。《意見》大平・橋浦を加へる事承認。

・オリンピック芸術展へは日数なく不参加。今後アメリカの赤色オリンピック芸術展に参加する方向をとる事。

・高知地方展準備中。

・横浜・名古屋や調査の上展覧会を開催する事。

《意見》名古屋や支準は厳密に調査の上支準としての資格を取消さねばならぬ。討論。

E、財政(小山)

(イ)大会準備金予算。¥20.00 (印刷ヒ)、¥35.00 (規約、決議案プリントヒ)、¥10.70 (発送ヒ)、¥15.00 (会場ヒ)、¥3.00 (装ヒ)、計¥83.00

(ロ)コップ財政委員会報告(阿部)

コップ費をPPPは至急納入の事。コップ維持ヒ(¥1.00)を納入の事。コップ基金¥100.00募集開始の事(5月1日ー8月1日)寄金徴作制。レンラクを定期的に確保する事。コップ出版滞納額¥8.00 (本部)、¥7.00 (支)、¥20.00 () 合計¥35.00至急納入の事。新聞、キカン誌保証金至急納入の事。

(イ)人事其他についての要求。1、部長変更(現部長病氣活動不可能)。2、当面せる財政の破綻を克服する為に拡大会

議開催の事。

F、調査（大平）（略）

G、農民委員会（橋浦）ナシ。

東京支部農民委員会報告（大平）、農村に働らかうとするメンバーによって構成。農村オルグ、組織的面の仕事を重視する事。

H、美新編委。（欠席報告ナシ）

I、プロ美編委（大平） 3・4合併号4月6日発行。5月号

未定。局会議2回、ポリセヴィキ的方向欠除、非大衆化

J、コップ（大月）

5月20日中央協ギ会開催。

K、メーデー対策委員会（松山）

1、4月21日編成。大月・大平・須山・長谷川・喜入・阿部・

松山。

1、メーデーカンパを出版活動（美新）に重心を置くといふ方針に従って、この活動に全同盟員のエネルギーを結集する事。

1、期間をメーデー後10日迄とし、この期間に於て必要とする斗争題目の数字を上げて、これを革命競争をもって決行せしめる事。

1、ニュース発行。（第1号27日）

1、各地方情報ナシ（東京に於ては『赤いコブシ』、『婦人マング』、『農民マング』、『プロレンダー』等の独自の出版をやリ、一方サークルの代表者会議、通信員懇談会等を計画し実践しつゝ、ある。

L、東京支部情勢（岡本）略。

M、神戸支部情報（大倉）

現在同盟員7名。ニュース1回、研究所拡大の見通し。1月展覧会を開いたのみ。淡路の移動展。美新月報発行。オール関西美新に対する斗争。メーデーカンパに対する斗争ナシ。

3、議事

1、支部・支準決定（組織部）

支部として認むべきもの 高知(6)・熊本(5)

支準として認めべきもの 宇治山田(4)・広前(7)

2、札幌支部春期大展覧会対策の件（展覧会部）

大月・橋浦派遣。ヒ用は支部負担の事（かかるヒ用も斗争の題目として算定すべき事）

3、大会対策の件（岡本）（略）

4、文化祭斗争方針に関する件（松山）

・基本的目標、反戦↓8・1デーへ！。コップの拡大強化。

國際的聯帶↓汎大平洋書記局確立へ！ 美術家同盟國際局確立へ！

・メーデーカンパの全成果の上に立ち、第3回大会が設定する新たな方針を最初に具体化すべき事。

・中心題目、工場・農村に労働画家を養成し、獲得せよ！

・方針書作製書記局一任。大会までに出す事。

5、財政活動対策の件（財政部）

・部長代理北島（尾崎）、拡大会ギ員阿部・堀・尾崎（以上財政部）山上・園田（支部財政部）三田・（書記局）川村。

当面大会と用ネン出に精力を傾注すべき事。なほ30日頃会議をもつ事。

6、人事諸決定。（書記局）

・農民美術委員会構成、長Ⅱ吉原、部員、橋浦・矢部・白石・

福田・飯野・福田を書記に決定。

・コップ書記長 大月推薦決定。

・労救準備委員会——大川。

・本部書記局救援係Ⅰ矢部。

・教育部書記Ⅰ平石。

・本部常任書記Ⅰ阿部。

・出版部長代理Ⅰ喜入隆。

7、次期常中委開催日時

・5月9日、時・場所は書記局一任。

次期常中委まで保留議案。

1、美新・プロ美術再認識の件

1、諸決定の扱方に関する件。

1、機関誌・美新、支部扱値段について。（書記局一任）

追加8、新同盟員決定（書記局）

・河村昌一（東京支部）28才。

絵画ポスター、紹介所Ⅱ矢部・山上。（4月10日附）

・アメリカ在住。

5月2日、書記局会議（第9回）

岡本・大月・阿部・寄本・三田・北島・松山（欠・長谷川・大平）

報告

1、拡大財政部会。（北島）4月30日

・大会と用準備日程並に責任額

2日Ⅱ¥16.00（内訳 人件4円、アツカミ2円、インク1

円20銭、紙8円、招集状45銭、雑35銭）

3日Ⅱ¥4.00（印刷）

5日Ⅱ¥25.00（人件10¥、津8¥、会場ヒ5¥、友誼団体招

待状2¥)

10 日 ¥24.70 (通信発送に¥8.70、印刷に16¥)

13 日 ¥16.00 (会場に10¥、装飾5¥、雑1¥)

15 日 ¥5.00 (雑)

計¥89.70

・ 拡大大会の期限大会当マデ

・ 部構成。長⇨北島。基金係(地方)⇨阿部、新維持員係、兼

東京支部扱⇨園田。基金係(東京地方) 山上。河村。維持員

係⇨堀。連進係⇨三田。

・ 基金アピール(三〇〇)出す。基金袋作製。

2、北海道展について(寄本)

・ 札幌支部主催の展覧会は20日より開催。作品一般募集。19日

カン查。

・ 当日(19日)迄に本部員の派遣希望。

議 事

1、芸オリンピック対策並に文化祭に於けるアメリカへの挨拶

・ 芸オリンピックに対しては特別に方針書出す事。(責任教育

部)

・ 挨拶展は文化祭方針にふくめて発表。(大会までに発表、責

任者・松山)

・ 両者いづれも6月15日メ切。

2、大会対策。

・ 大会に対する概文出す事(岡本)

・ 一般報告書印刷に50¥かゝる見込みなれば、機関誌部より5

月号発行ヒを回し、機関誌の大会特別号として10日までに発

行する事(一〇〇〇部)

・ 会場、仏教青年会館二階。と用¥7.00。

・ 期日、5月15日午前10時ヨリ。

3、美術年鑑1932年版作品公募の概、機関誌部一任。

4、コップ中央協ギ会開催。5月20日。下からの大衆的に持つ事。

5、常中委提出議案。

・ 前常中委残部議案2。

・ 文化祭方針書。

・ 大会対策。

・ コップ中協開催について

5月9日 常中委

出席⇨橋浦・岡本・大月・長谷川・喜入(代)・阿部(代)・松

山・三田・大平。欠⇨寄本・吉原・矢部。

1、一般報告(略) 松山。

2、副報告

A、組織（長谷川）

小田原のサークルがセクツ的傾向あり注意。

B、教育（大月）ナシ。

C、財政（阿部）

・拡大財政部会のプラン成績不明。

・コツプ財政部会ギ。―各同盟の財政部確立。―協ギ員ヒを

納入する事、不納入分、今年度、全部。―2500円基金募集取

消し、前5000円基金の未集分4200円を継続。―コツプ維持会

ヒ一円。出版物2割引の特典を与ふ。

（意見）Ⅱ一度たてた企画を遂行する事。並に新たな企画

を立て、ゆく事。

D、出版（喜入）

4月会計

入

¥17.50	新誌代（東）
¥9.74	出版物（東）
¥25.10	基金
¥5.00	あはがき
¥4.00	借金

計集 109.39

出

¥92.00	美新6号
¥8.80	同発送ヒ
¥4.15	文房具其他
¥2.60	書記雜件
¥0.95	人

計 ¥108.50

残81銭

5月7迄の会計

入

¥7.20	誌代（東）
¥3.20	々（新渴）
¥3.60	基金（々）
¥1.00	広告金（東）
¥5.20	基金代（本）
¥0.70	誌々金（東）
¥3.87	借金
¥5.00	基金
¥5.00	々
¥1.00	々

計 ¥38.71

残¥5.81

出

¥8.12	プロ美4号
¥1.06	發送ヒ件
¥0.20	人新雜ヒ美
¥0.52	美新口美金
¥10.00	プロ証金
¥10.00	保証金
¥3.00	広告

計集 32.90

・プロ美術集未調査

・基金募集の為にニュースを一週間すぎに出す事（承認）

E、展覧（松山代理）

北海道展進捗《意見》Ⅱ大月派遣不可能につき寄本を19ま

でに派遣の事。

F、機関誌（大平）略。

《意見》報告書を特別号とするは不可。これは純然たる報告書とし特別号としては大会後、報告、決議、決定案を一括し

て出す事。(承認)

G、美術編委 ナシ。

H、メーデー対策委員会(松山) ナシ。

I、コップ(大月)

拡大中央協ギ会開催、5月27日。築地小劇場にて。

・各同盟は、主要斗争を通じての数字的・批判的報告をプリントにして15日迄に提出する事。(報告部数三〇〇)

・中央協ギ会の拡大。各同盟より10名内外の協ギ員を選出し、各重要地方の成員から選ぶ事。

・各同盟は大衆的に拡中の意ギを宣伝し、これに動員する事、並にサークルの決ギ、メッセージ等を送らせる様働きかける事。

・各同盟はケービ隊を派遣する事。

J、農委、ナシ。

K、東京支部報告(岡本)

・組織活動不明。

・サークルの集合10位もつ。

・サークルの代表者会ギ8名集まる。不成功。(準備活動不完全。意義の浸透の不確実。機関の腐敗。下部機関の未確立。)

・通信員懇談会は美新の編輯局が取上げべきを教育・組織部

が取上げしかもそれを遂行しなかった。はっきり美新編輯局に委任すべき事。経理・教育部はこれを徹底化し、組織化する為に活動せねばならぬ。

・大会対策。として準備デーをもうけ、大会の大衆的宣伝活動と、大会を斗ひ取る為の一切の諸方策を行ふ。ニュースを出す。かゝる準備斗争を通じて地区(班)組織を備へてゆく事。

・右に関し地区・班の確立を期して総会(臨時)をもつ予定。

《班問題についての討論》 〓街頭班と工場班の性質について、

岡本・大月・松山。

議案

1、大会対策(岡本)

報告書14日 出来。

日程 第1日 〓会開の 。各種役員選出。祝辞メッセージ。

一般報告。副報告。

第2日 〓報告に関する討論・結語。決ギ起草委員選出。

支部報告。特委選出。中央委員選出。

第3日 議案上提。諸決定等。

期日 5月20日 21日 22日

会場第1、仏教青年館会。午前10時より。

第2、第3会場、プロ美術学校。

報告書部数、五〇〇。

大会スローガン(略)。

拡中東京支部追加推薦者、園田、朴、大場。

2、略称の件

J・U・P・F(コップ)

3、コップ中央協ギ員選考。

大月・岡本・橋浦・松山・羽根田(大阪)・佐藤(札幌)・奥

村(京都)・矢部・長谷川・大原(仙台)以上10名。

4、作同大会対策

メッセージを送る。代表者・橋浦派遣。

5、残部議案処理に関して。

A、美新・関誌再認識問題(大会一般報告にもとづいて討論にうつす事。)

B、諸決定に関する件(一応取下げ。)

C、文化祭方針審ギ(書記局一任)

D、

以上。

5月20日 第1回中央委員会

議案

一、常任委員選抜

長・橋浦、書記長・松山、組・長谷川、教・岡本、出・矢部、

展・寄本、財・山上、調・大月、新・岩松、機・太平、青・市

村、農・吉原、植・松山。

第1回常中委

議案

1、書記局構成

松山(東京、横浜、長野、新潟)、長谷川(九州、中国、

四国)、市村(京都、大阪、神戸、山田、名古屋)、岩松

(北海道、青森、仙台、三田、阿部)。

2、北海道地方本部員派遣

寄本、18日出発。橋浦未定、長谷川未定。

5月22日 第2回常中委

出席 橋浦、長谷川、岡本、矢部、山上、大月、大平、市村、吉

原、松山(三田、阿部)

欠 岩松(派)、寄本(出張中)

A、一般報告(松山)

1932、5、20

大会

大会経過―其他の情勢。

B、議事

1、大会批判（松山）

成果、大衆動員、デモ。

欠陥、非計画性、大会届けを出さなかった事。大会に対する

政治的意義の過小評価。日和見主ギ―岡本の欠席。―司会者の挨拶の言葉。等。

《意見》日和見主義に対する徹底的斗争。暴圧反対、犠牲者救援活動の強力な取上げ。デモの非科学性。不熟練

・大会批判書を出す事（五〇〇部） 書記局一任

・解散反対の声明を出す事（五〇〇部） 書記局一任

2、各活動部、機関の確立の件。

組織部（長谷川） 高森・市村・上野・松山。

教育部（岡本） 配布〓西島・芳賀・早川・尹。

企画〓須山・大平・小松・岩松

財政〓矢部・山上・中村・岡本・橋浦・尾崎・

岩松。

外交〓阿部・伊藤・佐藤。

書記〓喜入・西島。

展覽会部（寄本） 寺島・吉原・大隅（書記）

財政部（山上） 園田・松本・早川

調査部（大月） 橋本（書）・岡本・大平・三ツ木・長田。

機関誌編輯局（大平） 大月・岡本・長谷川・吉原・松山（伊藤）

〈追記〉

以上で、松山文雄がノートに書き記した日本プロレタリア美術家同盟の活動日誌は終っている。プロレタリア文化運動の資料としては、内務省警保局編『社会運動の状況』や司法省調査部編『司法研究（報告書第二十八輯九）プロレタリア文化運動に就いての研究』などがあるが、これらはすべて官憲側からの記録である。当時のプロレタリア文化運動は半ば非合法の運動であったから、各組織運動の内部の書類や資料は特高警察に押収されたり、また直接運動にたずさわった人たちが戦時下に危険を感じて、自らの手で焼いたり、処分して保存されることがなく、そのほとんどの資料が消失しているのである。それだけに、たった二カ月余りの短期間の記録であっても、直接、日本プロレタリア美術家同盟内部の資料が出現したことは、プロレタリア美術運動だけではなく、今後のプロレタリア文化運動の研究にとっても極めて有意義なものになるであろう。